

## 日常の組織的な授業改善

### 学校組織

#### 「子供が主体的・協働的に学ぶ力を身に付ける」 教師のコーディネート力を育成する組織づくり

##### 《学校の強み（○）と課題（●）》

- 若手教員とベテラン教員がよく語らう職場である。
- 児童一人一人の出番が確保されて自尊感情が育まれ、上級生が下級生に教える風土ができている。
- 教師の授業力の差を縮めるために、OJT機能の充実を図りたい。
- 児童が受け身になる授業が多い。「根拠をもちながら、本気で考え抜く力」を育成したい。



アドバイザー

- ☆ OJTを機能させるために、全員で手立てを話し合う時間や、短期PDCAサイクルを確立させるための時間を確保しましょう。
- ☆ 児童の主体的・協働的に学ぶ力を育成するために、児童の「分からない」を共有する場を設け、他者の考えと比べながら自分の考えを再構築する時間の確保を全学年・学級で実践しましょう。

##### 《学校の変容》

アドバイザーからの助言を全教員で共有し、「全員で取り組む」姿勢を大切にすることで、学校が驚くほど活性化しているのを実感しています。

短期PDCAサイクルを回して、学校をよりよくしていること、先生方自らが考えて取り組む姿が増え、先生方の参画意識や自主性が高まりました。



校長先生

「課題—まとめ—ふりかえり」の一貫性を意識した授業が増えました。

思考を促す問い返しにより、理由を説明しようとしたり、考えの違いを認め合ったりしながら、自然に学び合う姿が見られるようになりました。

## 各教科の本質に迫る深い学びの実現

### 授業づくり

#### 単学級に複式学級の授業スタイルを取り入れた 授業改善

##### 《学校の強み（○）と課題（●）》

- 複式学級における間接指導の際に、主体的に学習に取り組む児童が多い。
- 経験豊富な教員が多く、落ち着いて真面目に学習に取り組む児童が多い。
- 単学級に複式学級の授業スタイルを取り入れ、児童が主体的・協働的に課題を解決する授業を行いたい。
- 論理的に思考し、書いたり話したりする力を高めたい。



指導主事

- ☆ 複式学級における間接指導の児童は、自ら課題を立て、課題解決に向けて考えの根拠を伝え合う姿が見られました。「指導と評価の一体化」を図るために「両間接指導の時間(※)」を効果的に取り入れ、子どもの思考を見取りながら授業をコーディネートしましょう。
- ☆ 単学級における複式授業スタイルの第一歩として、「児童が自ら課題を立て、協働的に解決する時間の保障」から始めましょう。
- ☆ 学習指導要領の解説を読み込み、育成を目指す資質・能力を児童と共有しましょう。

※複式学級の授業における課題解決の場面で2学年同時に児童の学習状況を見取るようにすること。

##### 《学校の変容》

児童に任せても指導事項をしっかりと押さえることができるように、学習指導要領解説を見直し、育成を目指す資質・能力を児童と共有することを心がけました。



授業者

児童に任せる時間を増やしたことで、児童が主体的に他者に関わり、話し合いを通して高め合う姿が増えました。

納得するまで話し合いを進める中で、論理的に考える習慣が身に付きました。

## 日常の組織的な授業改善

### 学校組織

児童と教師が目標を共有し、常に意識し合いながらともに高まろうと取り組む学校づくり

#### 《学校の強み（○）と課題（●）》

- 教員と学習支援員等が連携して個に応じた支援ができる体制が整っている。
- どの学級も支持的風土のある学級経営に努めている。
- 学年単学級で個々の業務が忙しい中、日常的に学力向上に向けた情報交流ができる時間を確保したい。
- 教えることに一生懸命になりすぎる場面もあるので、児童が主体的に学ぶ場面を増やしたい。

アドバイザー



- ☆ 短時間でも全教員で情報共有できるよう、アドバイザーが作成した「チェックリスト」を活用して改善策を焦点化しましょう。
- ☆ 研究主題の「目指す子ども像」に対する具体的なイメージを共有し、目標達成に向けた短期テーマを設けるなどして、短期PDCAサイクルで取り組みましょう。

#### 《学校の変容》

チェックリストを基に、学力向上の土台となる「学習ルールの徹底」について、「学校共通目標2つ」と「学級別目標を1つ」を決め、学期毎に全校朝会で発表し合って取り組みました。自分たちで作った目標なので児童に意識化され、先生方の指導も響きやすく、また褒めることも多くなりました。児童が主体的に頑張ろうとする意欲が高まっています。



校長先生

児童が学習に落ち着いて取り組むようになり、主体性が育まれました。先生方も授業改善に向けて、テーマを決めて情報交換しながら取り組もうとする姿が多くなりました。

## 各教科の本質に迫る深い学びの実現

### 授業づくり

「主体的に学び、粘り強く課題に取り組む力」を育む授業づくり

#### 《学校の強み（○）と課題（●）》

- 小規模校のよさを生かし、きめ細かな支援を行っている。
- 毎週水曜日を「教材研究の日」に位置付け、ブロック毎の研修が定例化している。
- 経験年数等の差異なく、学校として育成を目指す資質・能力を高める授業の日常化を図りたい。
- 教材研究の時間を充実させ、職員同士の学び合いを活性化させたい。

- ☆ 短時間でよいので、互いの授業を見合う時間を作りましょう。公開する側も参観する側も自分の授業を振り返るよい機会になります。
- ☆ 「思考を促す発問」「構造的な板書」など、視点を決めて、短期PDCAサイクルを回しましょう。



指導主事

#### 《学校の変容》

他の先生方の授業を気軽に見せてもらえる環境を作ってもらったので、授業に関する相談もしやすくなりました。



授業者

私自身も進んで授業を公開して、授業を見せることに抵抗がなくなってきました。他の先生からよさを認められるので、授業への自信が高まりました。

「どうやったらよいか？」「どうしてそう考えたのかな？」等、思考を促す問い返しを大切にするようになりました。また、つぶやきにも注意を払い、児童一人ひとりの考えを大切にすることで、最後まで考え抜こうとする児童が増えました。

## 日常の組織的な授業改善

### 学校組織

目標に向かって全教員が積極的にかかわり、互いに高まろうとする組織づくり

#### 《学校の強み（○）と課題（●）》

- 教員同士が情報を共有し合い、OJTが機能している。
- 学校教育目標を新たにし、勢いのある学校づくりに取り組んでいる。
- 核となる教員だけでなく、全教員で学力向上を意識したい。
- 全国学力・学習状況調査で求められている学力につながる学習方法を全教員で共有したい。

☆ 学校経営のビジョンに基づいて、全職員で目標を達成するための具体的な方法を話し合い、先生方のアイデアを尊重しながら取組みを推進できる組織をつくきましょう。

☆ 学力向上のためには、全教員が目指すゴールに向かってトライ＆エラーの精神で臨み、実践を基に意見を交換することを大切にしましょう。



アドバイザー

#### 《学校の変容》

目標を常に意識し、具体的な手立てについて話し合う場をもったことで、職員における「共有」「協働」の姿勢が向上し、年代を超えて学び合う雰囲気が見られるようになりました。また、個別最適な学びを具現化する授業に挑戦する等、主体的に授業改善に臨む教員が増え、児童にもその姿勢が伝わり、授業に活気が生まれています。



校長先生

教員一人一人が様々な学習方法に挑戦し、成果を情報交換しながら高め合うようになりました。若手教員もベテラン教員も失敗を恐れず、主体的に授業改善に取り組む姿は、見ていて頼もしいです。

## 各教科の本質に迫る深い学びの実現

### 授業づくり

目的に応じて情報を結び付け、根拠を明確にして説明する力を育成する授業づくり

#### 《学校の強み（○）と課題（●）》

- 素直な児童が多く、基本的な生活習慣や学習規律、家庭学習の習慣が身に付いており、落ち着いた雰囲気がある。
- 児童が目的をもって情報を集めたり、情報と情報を関連付けて考えたり、吟味・検討したりする力を高めたい。
- 単元のゴールの姿をイメージした授業を行いたい。

☆ 全国学力・学習状況調査の分析等を基に、育成を目指す資質・能力を共有し、短期PDCAサイクルを確立しましょう。

☆ 見方・考え方を働かせることを通して育まれる単元のゴールの姿を意識した授業を心がけましょう。

指導主事



#### 《学校の変容》

授業者



全国学力・学習状況調査の問題を全員で解き、「解決の見通しをもつこと」という課題を共有したうえで、職員会議で「学力向上のための時間」を作ってもらったので、様々な先生の手立てを参考にして授業を行うことができるようになりました。

毎年3回行っている全校テストを「根拠を明らかにして説明しましょう」等の問題に作り直したことで、授業においても見方・考え方を働かせながら根拠を説明する場面が増えました。

児童が自由に動きながら協働的に解決しようとしたり、自然な形で話し合いが始まったりする姿が見られるようになりました。

研究教科である算数の授業において、積極的にICTを活用して「グラフの読み取り」等の授業改善を行い、情報を正しく読み取る力が高まりました。

## 日常の組織的な授業改善

### 学校組織

#### 学力向上に向けた「組織力の向上」により 教員の意識改革を図る

##### 《学校の強み（○）と課題（●）》

- 素直で生活態度も落ち着いていて、地域の方々に積極的に挨拶ができる生徒が多い。
- 授業では、教師の指示を適切に理解して学習に向かうことができる。
- 教師の説明中心の授業から生徒主体の授業への転換を全教員で協働的に実現させたい。
- 学力向上に向けた具体的な取組みを組織的に行いたい。

- ☆ 定期的に生徒の学力について話し合うことのできる時間を確保して、短期PDCAサイクルを確立しましょう。
- ☆ 育成を目指す資質・能力を焦点化し、全教員で共有しましょう。



アドバイザー

##### 《学校の変容》

育成を目指す資質・能力について全教員で話し合い、「課題をつかみとる力」「思考を鍛え喋る力」「分かる喜びを感じ取る力」の3つに焦点化しました。



校長先生

さらに、学習をテーマにした生徒集会を開いて、育成を目指す3つの資質・能力について生徒同士で話し合う時間を取り、生徒の意見を取り入れて「分かる喜びを感じ取る力」を「分かる喜びを分かち合う力」に変更しました。

教科部会が日常化し、体育部会が放課後ダンス研修を企画するなど、同僚性が高まりました。

「やってみたい、できるようになりたい課題を引き出す単元」を重視し、生徒の主体性も育ってきました。

## 各教科の本質に迫る深い学びの実現

### 授業づくり

#### ボトムアップ型研修で教員が主体的に学び合い、 教科を超えたつながりを生み出す授業改善

##### 《学校の強み（○）と課題（●）》

- 全体で話し合ったことを教科部会で具現化し、さらに教科を超えて共有化する校内研究システムが確立されている。
- 教員の意見を大切にした学習指導と生徒指導の改善を行うことで、生徒が落ち着いて学習できる環境が整ってきた。
- 学年の系統性を捉えながら教科等横断的な資質・能力を育成したい。
- 「指導と評価の一体化」を図りたい。

指導主事



- ☆ 教科や学年を超えて、全教員で話し合う場を設けることで、自学年や自教科にも役立つ情報が得られ、育成を目指す資質・能力の共有にもつながります。
- ☆ 「B評価（概ね満足できる状態）」を生徒の具体的な姿を通して共有する場を設けましょう。

##### 《学校の変容》

全教員で話し合っ共有した育成を目指す資質・能力について、4月に生徒や保護者にも説明しました。



授業者

各教科において適切な評価規準を定めるための校内研修を設けたことで、評価を意識した授業づくりができました。さらに、具体的な生徒の姿を基に「評定」についても振り返る場を設けたことで、「適切に見取る難しさ」に気づき、年間を通した生徒の育ちに目が向くようになりました。

短期PDCAサイクルを効果的に取り入れるために、テストの自動採点ソフトを導入し、効率化を図りました。

各自で作成した教材や資料を共有フォルダに入れることにしたので、若手教員の私には、とても参考になります。

# 日常の組織的な授業改善

## 学校組織

### アクションプランの「CA」を充実させる取組み

#### 《学校の強み (○) と課題 (●)》

- 「付きたい力」や「資質・能力」が明確になり、各教科で共通して取り組む指導内容が整理されたアクションプランとなっている。
- いか「評価」していくかに悩んでいる。アクションプランを日常の実践につなげるため、「子どもの姿」を評価しながら「CA」の段階を充実する必要がある。

☆ アクションプランでは、「評価」をどのようにしていくかが大切です。確実な評価のため、「教師の評価」と「児童生徒の評価」を分けて実施することも考えられます。加えて、定期的に数値による評価を行いながら、「付きたい力」がどの程度身に付いたかを確認することも効果的です。

☆ 「評価」しやすいように学期ごとに取組みを焦点化し、アクションプランの内容を充実させていきましょう。



アドバイザー

#### 《学校の変容》

アクションプランの充実に向けて、学期ごとの「ワンアクション」を活動部で作成しました。職員会議で共有し、焦点化して取り組むことができました。

さらに、取組みの成果と課題が可視化されたことで、継続すべき点や改善すべき点が把握しやすくなりました。



教頭先生

教師の主観的な見取りではなく、数値で見取することで、客観的に評価することができました。

このことにより、「CA」の段階が充実し、PDCAサイクルが効果的に機能するようになりました。

# 各教科の本質に迫る深い学びの実現

## 授業づくり

### 学校規模に応じた、チームによる授業づくり

#### 《学校の強み (○) と課題 (●)》

- 1または2学年で授業を創る共同研究体制が充実している。
- 「資質・能力を明確にすること」、「見方・考え方を働かせて思考する子どもの姿を明確にすること」、「カリ・マネの充実を図ること」の3点をポイントに単元を構想している。
- 「見方・考え方」を働かせている子どもの姿が明確に捉えきれていない。

☆ 学習指導要領や教科書の内容から「見方・考え方」に通じるポイントや汎用性を明らかにして、子ども目線で単元や本時の目標を吟味し、具体的に示してみましょう。

☆ 深い教材研究が必要です。一人よりもチームで教材研究を行い充実させていきましょう。



指導主事

#### 《学校の変容》

例えば、「～を活用することができる」と目標を設定したとき、チームで教材研究を行うことで、「～を具体的に並び替えて説明することができる」と、より明確に目標を捉え直すことができました。

チームで単元づくり、学習問題づくりを行っているので、若手の授業力の向上につながっています。

目標を具体的にすることで、働かせたい「見方・考え方」が明確になり、効果的な問い返しなど、授業のコーディネート幅が広がりました。

単元構想シートに、見方・考え方を働かせている姿を明記しています！

単元名	単元目標	単元学習のねらい	単元学習の展開
算数 小数の性質	小数の性質を調べ、小数の性質を説明することができる。	小数の性質を調べ、小数の性質を説明することができる。	小数の性質を調べ、小数の性質を説明することができる。
算数 分数の性質	分数の性質を調べ、分数の性質を説明することができる。	分数の性質を調べ、分数の性質を説明することができる。	分数の性質を調べ、分数の性質を説明することができる。
算数 百分率	百分率の性質を調べ、百分率の性質を説明することができる。	百分率の性質を調べ、百分率の性質を説明することができる。	百分率の性質を調べ、百分率の性質を説明することができる。



研究主任

## 日常の組織的な授業改善

### 学校組織

全職員の共通認識を基にした学力向上に向けた体制づくり～若手育成のために～

#### 《学校の強み（○）と課題（●）》

- 「学習過程」や「対話力」向上のためのプログラムを全学年で共通して取り組んでいる。
- 同地区の学校で協働してOJTを進めている。
- 教職10年未満の若手教員の担任力の向上を図りたい。
- 校内研究の日常化により授業改善をより推進させたい。
- 通常学級に在籍する特別な支援を要する子どもへの対応を充実させる必要がある。

☆ 「確かな学力」の育成には全職員の共通認識が不可欠です。アクション・プランを活用したり校内研究を核とした研修会や日常の授業実践等を通してイメージを揃えたりしていくことも必要です。

☆ 全教員で取り組む「プログラム」がある自校の強みを活かし、若手の教員がその「プログラム」を日常的に実践できているか見届け、さらにアドバイスを行うPDCAサイクルを大切にしましょう。



アドバイザー

#### 《学校の変容》

学習過程のプログラムの中で、「整理する」「まとめる」等の項目に特に力を入れ、全職員で後半重点型の授業改善に努めています。

授業研究で効果のあった指導や実践などを共通実践事項としてまとめ、短いスパンで全校で取り組んでみようと思います。



校長先生

学校全体として育てたい力を共有するためにアクション・プランを活用し、校内研の中に振り返りの時間を設けました。

## 各教科の本質に迫る深い学びの実現

### 授業づくり

「付けたい力」と働かせたい見方・考え方を明確にした授業づくり

#### 《学校の強み（○）と課題（●）》

- 全国学力・学習状況調査、NRT等の結果から「付けたい力」を分析し、手立てを共有しながら取り組んでいる。
- 職員室の何気ない会話から日常的な校内OJTが行われている。
- 系統性をより意識しながら学びを積み上げていきたい。
- 学習指導要領における「指導と評価の一体化」のために学習評価等に関する理解を深めたい。

指導主事



☆ その時間に「付けたい力」を明確にして、適用問題等で個別の到達度を確認できるように、後半重点型の授業を心がけましょう。

☆ また、「付けたい力」を付けるために「働かせたい見方・考え方は何か」を明確にして、それを働かせる場を授業に設定しましょう。

☆ 計画的に指導に活かす評価と記録に残す評価を行い、子供たちに必要な補完を行うことが学力向上につながります。

#### 《学校の変容》

「働かせたい見方・考え方」を意識することで、どんな課題でどんな思考をさせたいか、子どもの具体的な姿で考えることができました。

その時間に「付けたい力」を明確にすることで、どんな適応問題で何を見取ればよいのかを整理して授業づくりができました。



授業者

ICTを活用して、子どもの思考過程を見取る工夫に挑戦してみました。

## 日常の組織的な授業改善

### 学校組織

#### 「学校として育成したい資質・能力」 を明確にした教育活動の充実

##### 《学校の強み（○）と課題（●）》

- 「付きたい力の明確化と授業改善」をねらいとした、カリキュラム・マネジメントの推進が図られている。
- 教員の構成について、ベテラン教員と若手教員が多く、中堅教員が少ない。校内OJTを充実させながら、若手教員の担任力向上を図る必要がある。

- ☆ 「学校として育成をめざす資質・能力」を先生方と語り合い、焦点化して取り組みましょう。先生方の学校運営の参画意識の向上や、カリキュラム・マネジメントの充実につながります。
- ☆ ベテランから若手が学び、若手からベテランが学ぶ視点を大事にしながら、全職員のベクトルを合わせて目指す子ども像の具現化を図りましょう。

アドバイザー



##### 《学校の変容》

「学校訪問シート」を管理職による評価に留めず、先生方にも配布し、定期的に自己評価をしてもらうようにしました。その結果を全体で共有し、分析することを通して「学校として育成をめざす資質・能力」について、先生方とより具体的に話し合うことができました。

また、これまで以上に子どもにどんな力を付きたいかを意識し、学習活動がねらいに沿ったものになっているか確かめながら授業を進めることができるようになりました。



校長先生

ICTの活用などを切り口に、放課後に職員間で学び合う姿が日常的に見られるようになりました。「ベテランと若手の協働」という視点をこれからも大事にし、学び続ける教師集団でありたいと考えています。

## 各教科の本質に迫る深い学びの実現

### 授業づくり

#### 「指導と評価の一体化」に向けた 単元デザイン力の育成

##### 《学校の強み（○）と課題（●）》

- 学級経営を土台としながら、探究的な学びのポイントを意識した授業改善に努めている。
- 評価場面、評価方法などの評価計画について、実践の蓄積と具体的な検証が必要である。



指導主事

- ☆ 評価規準について、どのような発言や記述があると目標を達成したといえるのか、具体的な子どもの姿をイメージしておくことが大事です。「記録に残す評価」と「指導に生かす評価」を明確に位置付けながら単元をデザインしましょう。
- ☆ 振り返りのねらい、視点を明確にして学習活動に位置づけましょう。教師が子どもの学びを見取り、子どもが自分の成長を実感したり、学習の見通しをもったりすることができるよう生かしていきましょう。

##### 《学校の変容》

事前研で、目標を達成した具体的な姿をイメージしながら評価計画を話し合うことができました。授業の中で、子どものどのような姿を見取ればいいのか明確になったことにより、時機を逃さず声かけをして価値づけたり、助言したりすることができるようになりました。事後研でも、具体的な子どものつぶやきや記述を取り上げながら、目標を達成することができたかを、先生方と分析することができました。

振り返りのねらいや視点を考えることで、改めて本時の目標や学習過程が適切かどうかをみんなで考えることができました。1時間ずつ切り離すのではなく、単元全体のつながりを考えた単元構想を大事にしていきたいと思っています。



授業者